

## 第5学年 道徳科学習指導案

1 主題名 友達と支え合う B〔友情, 信頼〕 1時間完了  
教材名「友のしょうぞう画」

### 2 構 想

本学級は、男子 16 名、女子 16 名、計 32 名である。十月末の山の学習の準備に向けて、男女分け隔てなく、協力して充実した 3 日間にしようという継続的な意欲が感じられた。一方で、普段の休み時間の過ごし方を見ていると、友達の気持ちを考えずに自己中心的な行動をしたり、友達を傷つけるような発言をしたりして、トラブルになることが少なくない。また、表面上では、仲良く過ごしているように見える友達同士でも、自分の気持ちを素直に伝えられない子供もいる。これらのことは、「学校での悩みごと」についてのアンケート調査において、学級の約 3 割の子供が「友達のことで悩んだことがある」と答えたことから窺える。さらに、「友達とはどんな存在か」を聞くと、学級の半数の子供が「信頼できる人」「支え合える人」と答えたが、残りの半数は、「遊んでくれる人」「楽しい人」と答えた。本学級で起きる友達同士のトラブルや悩みは、友達の存在の認識が薄いことが原因であると言えるだろう。本学級の子供たちは、本物の友情について深く捉えることができていないのが現状であると言える。

本主題で扱う「友のしょうぞう画」は、幼馴染の和也と章太が、離れ離れになっても互いのことを思う物語である。入院した章太からの手紙の返事がなくなり、章太との繋がりを疑った和矢と、和矢を一途に思っ作品を作る章太の二人の姿が対照的に描かれており、友達を思う心とはどのようなものかを考えることができる教材である。子供たちは、これまでの学校生活の中で、友達を信じたり疑ったりした経験があるだろう。本教材は、そうした経験を想起しながら、登場人物に共感しやすい場面が多く、「友情, 信頼」についての考えを深めていくのに適した教材である。また、互いに支え合い、信じ合うことで友情が深まっていく様子から、自分も友達と信頼し合える関係を築いていきたいという意欲を高めることができるだろう。高学年のこの時期には、「真の友情」について理解を深めることが求められている。「真の友情」とは、互いを思いやり、認め合い、どんなときでも支え合う関係であるべきであろう。学芸会や山の学習など、大きな行事を共に乗り越え、支え合う友達がいることの素晴らしさを再発見することができた今だからこそ、友達の在り方を考えるのに適した時期であると考え、本主題を設定した。

本年度、小学校では、教科書の教材を中心として、「自分事として考え、議論する」道徳科の授業の在り方が模索されている。自分事として考える姿とは、教材の道徳的問題場面を自分の問題として捉え考える姿や、自分の価値観と照らし合わせながら考えたり話し合ったりする姿、そして、自分の生活を振り返り、授業で得たよりよく生きるための気付きや学びを自分の生き方にいかしていくとする姿を指す。このような道徳科の授業を構築するためには、「主体的・対話的で深い学び」が不可欠である。まず、主体的な学びを目指して、授業の導入では、本時の主題「友情・信頼」をキーワードとして提示する。キーワードを提示することで、ねらいとする道徳的価値への方向性を示し、自分事として考える意識を高める。次に、「友達がいてよかった」と思った経験についての事前アンケートの結果を示す。アンケート結果を示すことで、個々の友達観と比較し、自分の経験を想起しながら教材を読むことができるようになるであろう。さらに、教材を読んだ上で、学習課題を自分たちで考える場を設けることで、問題意識のある主体的な追究ができるようになる。また、対

話的な学びを目指して、授業の展開では、多角的に考えることができるような発問をして、言語活動を充実できるようにしたい。子供の意見が表面的なものに終始することが予想されるため、切り返しの発問を意図的に行う。子供の心を揺さぶり葛藤する場を設けることで、より対話を深め、子供の本音を引き出すことができるようにしたい。本時では、「友達を思う心」についての考えが深まることを目指し、一度は友達を疑った和也と一途に思い続けた章太の、友達を思う気持ちを比較する場面を設定する。その際に、彼らの思いの深さの違いや心情の変化を、視覚的に捉えやすいように、和也の気持ちの流れを構造的に板書する。さらに、授業の終末では、もう一度主題に目を向け、友達について考える時間を設ける。授業を通して深まった部分を取り上げて価値付けすることによって、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めることができると思う。本教材での学習を通して、子供たちが、新たな友達観を見出し、「真の友情」を育もうとする意欲を高められることを願う。

### 3 本時の学習

#### (1) ねらい

- ①病気の章太と、章太を心配していた和也が交流を続けようとする姿を通して、「友達を思う心」とはどんなものかを、自分事として考えることができる。
- ②相手の気持ちを考えて、互いに支え合いながら、「真の友情」を育てようとする心情を高める。

#### (2) 準備

- ① 教師・・・教科書、挿絵、ワークシート、タイマー、ネームプレート
- ② 児童・・・教科書、筆記用具

#### (3) 抽出児について

##### ①本校の研究について

本校では『子ども一人一人が輝く「ダイヤモンド（大ヤマト）学習」の創造 ～教育のユニバーサル化をめざして～』とのテーマのもと、研究を推進している。

各学級には、多様な特徴をもつ子どもが数多くみられる。そのような子どもたちのみならず、全ての子どもが明るく楽しい学校生活を過ごすことができるようにするために、教育のユニバーサル化の考えに即した「わかる喜び、学ぶ意義を実感できる授業の構築」を目指している。

##### ②抽出児の特徴

###### 【抽出児童A】（支援を必要とする抽出児童）

登場人物の行動や心情を考え、表現することが苦手な児童である。しかし、授業後のアンケートで、「今日の話について深く考えることができたか」を問うと、よくできたと自己評価をすることができた。どの友達の意見に似ているかを考えさせることで、自分の立場を明確にして、少しでも自分の言葉で表現できるようにしたい。

###### 【抽出児童B】（評価対象上位者）

毎時間、積極的に自分の意見を発表することができる児童である。自分の経験を関連付けながら、登場人物になりきって思いを表現することもできる。しかし、自分の考えに固執しやすい傾向にあるため、友達の意見にも目を向けさせて、比較したり納得したりしながら、考えを深める姿を引き出したい。

<目指す姿>

教材の道徳的問題場面に自分事として向き合い、  
友達の意見と比較しながら、自分の考えを深めることができる子供

③ 手立て

ア：導入で、主題「友情・信頼」を提示したり、「友達がいてよかった」と思った経験についての事前アンケートの結果を示したりすることで、友達と過ごしてきた学校生活を想起しながら教材を読むことができるようにする。(主体的な学び)

イ：展開で、多角的に考えさせる主発問と批正を促す補助発問をしたり、意見を構造的に板書したりして、言語活動を充実させる。(対話的な学び)

ウ：終末で、本時の学習を板書で振り返り、もう一度主題に目を向けさせることによって、「友情・信頼」についての考えの深まりを価値付けできるようにする。

(4) 展開

段階	子供の活動	教師の支援
つ か む (10)	1 主題を知る。 2 主題についてのおみんなの意識を、アンケート調査の結果から捉える。 3 教師の範読を聞き、感想を述べる。 ・章太の絵を見て、和矢が涙を流した場面が心に残ったよ。 4 課題を考える。 ・信頼できる友達ってどんな友達だろう。	・キーワードとして、「友情・信頼」という言葉や事前に行ったアンケート調査の結果を提示し、「友達」についての意識を確認させるようにする。 ・教材「友のしょうぞう画」を範読し、感想を聞く。 ・課題を考えさせ、提示する。 ・ペアで話し合う時間を設ける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">友達を思う心とは、どんなものか考えよう</div>		
ふ か め る (20)	5 教材「友のしょうぞう画」に登場する人物の行動や心情について話し合う。 (1) 章太から返事が来なくなったときの和矢の気持ちを考える。 ・章太は、病気の具合が悪くなってしまったのかな。 ・ぼくのことを、忘れてしまったのかも。 (2) 章太の作品を見て、涙を流した和矢の気持ちを考える。 ・章太を疑ってしまった自分が情けない。 ・ぼくは、章太のことを疑ってしまったのに、章太は、ぼくのことをずっと思ってくれていたんだね。ごめんね。 ・章太がリハビリをがんばっているから、ぼくも、勉強や運動をがんばろう。	発問 章太からの返事がこなくなったとき、和也はどんなことを考えていたでしょう。 ・章太を心配する気持ちばかり出る場合は、「心配しているのにどうして手紙を出さないのだろう」と補助発問をし、章太への疑いの気持ちもあることを押さえる。 発問 章太の作品を見て、涙があふれたとき、和矢はどんなことを考えていたでしょう。 ・章太との繋がりを疑った和矢と、和矢を一途に思って作品を作る章太の、友達を思う気持ちを比較できるように、批正を促す補助発問をしたり、意見を構造的に板書したりする。

ひ ろ げ る (10)	<p>6 和矢が章太に宛てた手紙の内容を想像して書き、読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手に力が入らないのに、一生懸命ぼくの絵をかいてくれてありがとう。章太が一生懸命リハビリをがんばっていることが分かったよ。ぼくも勉強をがんばるよ。また手紙を書くな。</li> </ul>	<p><b>発問</b>和矢は章太にどんな手紙を書いたでしょう。和矢になったつもりで手紙を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑ってしまったことを反省したり、章太の深い友情に気付いたりする和矢の気持ちに共感し、心を込めて手紙を書いている子供を称賛する。</li> </ul>
ふ り か え る (5)	<p>7 本時で学んだことや考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、一緒に遊んでくれる子が友達だと思っていたけれど、もっと仲良くなって、和矢と章太みたいに、互いを信じ合えるような関係になりたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>本時の学びを板書で振り返らせ、再度主題に目を向けさせた上で、学んだことや考えたことを書くよう指示する。</b></li> <li>・ 机間指導をし、「友情・信頼」についての考えが深まっている児童を意図的に指名する。</li> </ul>

(5) 評 価

- ① 教材に登場する人物の心情やその変化を通して、「友達を思う心」とはどんなものかを、自分事として考え、表現することができたか。(活動5, 6の様子, ワークシートから)
- ② 互いに信頼し合える友情を育みたいという意欲を持つことができたか。(活動7の様子, ワークシートから)